

城北



令和7年3月1日現在
総世帯数 3,782
総人口 7,744
男 3,688
女 4,056

文化部
講演会

『人々は疫病と どう向き合ったか』



2月14日、田町町会の後藤芳孝先生の講演会がありました。新しい疫病コロナの流行も6年目になりました。古代から現代までの人々と疫病との関わりを、丁寧に分かりやすく教えていただきました。

■疫病は海外から入る■

8世紀に天然痘が大陸から侵入した後、風疹、インフルエンザ（三日病み）、麻疹、赤痢、チフスなどが流行し、江戸時代の19世紀にはコレラやペストが侵入してきました。そして、6年前からはコロナが流行しています。

■疫病は鬼や怨霊のしわざ■

疫病の原因が病原菌である



▲田町町会
後藤芳孝先生

と人々が知るのは、近代医学が発達してからです。人々は鬼や怨霊のしわざと恐れしました。菅原道真は死後、怨霊とされ、陰陽師安倍晴明が怨霊を鎮めることで活躍したことは広く知られています。

■神仏頼み■

薬もなく、人々は神仏・まじないに頼るしかありませんでした。8世紀の天然痘大流行の折には、東大寺に大仏が建立されました。時の天皇は祈禱し、大赦いをし、税金を免じたり、年号を変えたりしたそうです。

■護符を貼る■

家に厄除けの護符を貼り、身に付けて祈りました。端午の節句に飾られる鍾馗様は鬼退治の善神であり、現代まで睨みを利かしています。江戸時代の「アマビエ」も護符としてコロナ禍で復活しました。

■鬼払いの行事■

今も節分の豆まきは盛んに行われています。京都の祇園祭も、怨霊を鎮める鬼払いの祭りです。山車や山鉦は疫神を



■芸能で退散させる■

この他にも田楽、狂言、雅楽、舞踊り、歌等の芸能の力で退散を願ってきました。また人々を慰める意図もあり、松本でも1862年の麻疹流行時に神事と共に花火、狂言、相撲が行われた記録があるそうです。

■受講して■

今回受講して、年表に「疫病流行」の文字がいかに多いかを知りました。古代から、なすすべもなく、疫病で亡くなっていた多くの人々のことを思いました。現在、コロナは終息したわけではありませんが、感染症の区分が5類になり、コロナの情報は減り、

危機感が薄れているようです。これからも流行病予防を一層心がけねばと思いました。

城北地区ひろば初の催し

「おとこ旅」

諏訪大社四社・諏訪酒造・高島城巡り



2月28日に福祉ひろば初の試みの、「おとこ旅」を行いました。バスの中は男衆の期待一杯の笑顔が満ちあふれる盛況です。案内役女性4名に付き添われ後藤先生の名ガイド付きでいざ出発進行！

7年に1回の御柱では、まず大鳥居に迎えられた下社の春宮。宮大工の獅子などの見事な彫刻が施された幣拝殿・下馬橋・宝殿・万治の石仏を見学。次に下社秋宮の宝殿では青銅製では日本一の狛犬を両脇に従えた神楽殿・奥のご社殿を見学参拝しました。

諏訪市役所の食堂でバイキング昼食をいただき、午後は諏訪信仰発祥の地の茅野市宮川の上社前宮を長い石段を登り拝観（当日は神事中で



▲幣拝殿を見上げる参加者



▲諏訪を満喫しました。

した）、4本の御柱のまわりをぐるりと一巡しました。最後は総本社の上社本宮の東宝殿・西宝殿（軒先からはどんな干天の日でも最低3粒の水滴があるという、諏訪の水の守り神と尊敬されている）を参拝し、各神社の見事な4本の御柱を見上げて、希望者は御朱印をいただき神社巡礼終了です。

次は続日本百城に認定され、諏訪湖・富士山を一望できる高島城見学コースの方と二手に別れて、いよいよ上戸お待ちかねの諏訪五蔵巡りです。諏訪の醸造店5社の天下の銘酒を心ゆくまで試飲・購入し、ほろ酔い満面の笑みで帰路へ。

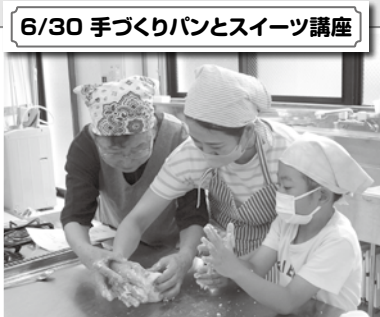
初めての試みでしたが、女性スタッフの温かい心配りと春間近の日差しのおかげ、男衆は諏訪路見学を満喫させていただき【よろずおさまった】「おとこ旅」となりました。

令和6年度 館報編集・記録班の活動 (一部)

記録班は、公民館の様々な事業に出向き、活動の様子を記録しています。



5/18 ウォーキング大会



6/30 手づくりパンとスイーツ講座



7/12 防災(信州大学出前)講座



7/19 文化部視察研修



7/30 科学講座



8/2~3 公民館に泊まって遊ぼう



11/6 ハワイアンキルト講座



11/9 マレットゴルフ大会



11/11 普通救命講習会



11/30 健康講座



1/26 軽スポーツ交流会



1/30 松本城世界遺産講座



2/1 珈琲焙煎講座



2/2 ケーキ作り教室



2/28 福祉ひろば「おとこ旅」